



旧半原小学校木造校舎の正面玄関

校章の梅の花をかたどった
教室天井の換気口



さあ 時間を探検する旅へ

懐かしの学び舎



再現した学び舎で当時の暮らしを学ぶ児童たち



今もお美しさが残る校舎の内観

問い合わせ：郷土資料館 ☎046(280)1050

町長メッセージ

このたび、大正15年に建てられた県内最古の木造校舎である「旧半原小学校木造校舎」を、町の財産として次世代へ伝承し、活用していくために、「懐かしの学び舎」として再現いたしました。

地域の皆様をはじめ、「半原小学校卒業生有志の会」の皆様、さらには木造校舎の清掃活動にご協力をいただきました「半原婦人会」の皆様には、心から敬意を表します。また、「学び舎」に設置した昭和当時の机や椅子などは、全国の市町村に呼び掛け、友好都市・長野県立科町、和歌山県田辺市、福岡県大川市などから寄付をいただきました。大変有り難く思っております。

こうした善意に感謝をしながら、この「学び舎」が多くの皆様に愛され、様々な形で活用されていくことを期待いたしますとともに、訪れた方々には、ぜひ昭和の時代に「タイムスリップ」をしながら、先人の残した財産から新しい意味や価値を再発見し、未来を予測していただければ幸いに存じます。

愛川町長 小野澤 豊

昭和期の教室を再現

旧半原小学校木造校舎の一室を「懐かしの学び舎」としてリニューアルし、10月4日に開館セレモニーと特別授業を実施しました。

この日は、半原小学校3年1組の児童32人がこの「学び舎」で授業を受け、昭和の雰囲気を楽しみました。

卒業生有志が 記念文集などを寄贈

懐かしの学び舎再現事業に合わせて、「半原小学校卒業生有志の会」の皆さんが記念文集と絵はがきを作成し、開館セレモニーで児童に手渡されました。

寄贈された絵はがき
(絵・山下 徹さん)



イラストで描かれた「旧半原小学校木造校舎」が、文集の表紙と絵はがきを彩ります。



左から、校舎の清掃活動にご協力いただく半原婦人会の東條洋子会長、半原小学校卒業生有志の会の和田一雄代表、同会の齋藤光枝さん



明治期の半原小学校木造校舎の絵図面

当時、洋風の建物として時代の先端だった半原小学校木造校舎。正面玄関には特徴ある朝日が描かれ、左には特別棟、右には倉庫がありました。建築期間は3年で、当時の金額で4万円という巨額の費用で建てられました。



廊下脇の土間

全国的にも珍しい特徴として、廊下の脇に同じ幅の土間を設けています。大正12年の関東大震災後間もない大正15年に建てられた建物だけに、地震の際の児童たちの緊急避難に備え、廊下脇の土間から一斉に外に出られるような構造になっています。

「半原宮大工」が建造
旧校舎は「半原宮大工」により大正15年に建てられ、隅合掌と呼ばれる独特の梁や、「ドイッ下見」といわれる上下の板が重なる部分を組み合わせた外壁などが特徴です。
昭和53年まで校舎として使われ、その後は一時、町郷土資料館として利用されました。建築から95年がたった今でも健在なその姿に、半原宮大工の高い技術力がうかがえます。



玄関ポーチ

玄関の外側にひさしのある出入り空間を設けています。ここに使われている柱材は、当時の学校建築の水準を超える太くて立派なものが用いられています。



ゆがんだガラス

教室の窓ガラスには景色がゆがんで見えるものがあります。これは、当時ガラスを平らにするのが技術的にとても難しかったため、こうしたガラスが使用されています。



② 半原神社
半原4173



① 菅原神社
三増2145

半原宮大工が手掛けた建造物としては、町内の寺社仏閣などのほか、伊勢原市大山にある「雨降山大山寺」や、寒川町の「寒川神社」があります。

その後、半原宮大工の名は関東一円に知れ渡り、江戸城の修復に関わるなど、その腕を称えられていました。

「半原宮大工」とは？
半原地域は、水田耕作などに適した土地が少なく、多くの人が職人として働いていました。

町内に残る 半原宮大工が手掛けた建造物

③ 旧半原小学校木造校舎
半原2201

④ 清雲寺
半原836



⑤ 中津神社
田代332



⑥ 勝楽寺・山門
田代2061



⑦ 龍福寺・山門
中津408

⑧ 古民家山十郎・薬医門
中津485-1

